

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

(345)

信濃毎日新聞の一面の左下の「こと映え」。6月のお題「羽を伸ばす」。「引っ込み思索」。「仏の顔も三度」。「大胆不敵」に「ベットや街

で見掛けた生き物の写真と四字熟語などを募集するコーナーが面白い。活字離れが叫ばれている中で、なるほどと思わされる動物の表情に朝食の話が盛り上がる。そして、1面の記事が気になり新聞を読んでいく自分に驚かされる。

俳人の正岡子規が衣替えの時季を「六月を綺麗(きれい)な風の吹くことよ」と歌ったが、6月初旬、我が父の弟の倉科孝教さんが享年98歳で亡くなった。通夜で家族が声をかけをす。昔から「人間、息を引き取っても耳はしばらく聞く」といえる。通夜

で死人の悪口は禁物」と言われるべらいた。呼び掛けた言葉が届いてほしいと願ってしまふ。走馬灯のように思いうかがひ込み上げてくる。2人で国技館の棧敷席での相撲見物。そ

水の価値を考える事で自然との営みが楽しくなる

的表現力やプロ作家の革新的創作力が歌謡曲の黄金時代を謳歌した時代。最近では、カラオケの普及もあって歌いや曲ばかり求められる時代だが、当時の叔父は、歌唱力、表現

して2人部屋で深夜まで語り合った時間。叔父は歌自慢で、ほとんど歌詞カードを見ずに歌謡曲を歌い、上手な歌声は場を何時も明るく照らしてくれた。当時は、プロ歌手の圧倒

力など「聴き歌」の歌い手として忘れ去る事は無いのだろう。梅雨の時期になり、ひ弱だった早苗も水と土の恵みを受けてぐんぐんと伸びている。毎年目にするコメ作りの

風景だが、世界的には非常に珍しいと植物学者の稲垣栄洋さんが「水」の価値を紹介した。農作物の栽培には「連作障害」がつきもので、生育が悪くなった。病虫害が発生する。だから欧州では麦を刈り取ったら、家畜を放牧して畑を休める三圃(さんぼ)式農業が普及した。では、稲作はどうして大丈夫なのか。それはひとえに水のおかげ。田んぼに水を流すことで、余った養分や有害物質が洗い流され、新しい養分も供給される。水を入れたり乾かしたりすれば、同じ病原菌も増殖しにく



い。要すれば豊富な水資源があればこそだと。貴重な資源だか、春の少雨では愛知県東部の宇連ダムは、34年ぶりに見守ってほしいと叔父にお願いした。悲しい一時でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上) ……

水面を活発に動きまわる鴨、水の恩恵に思わずほほ笑む